



## 新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス  
代表取締役社長

武田 大二郎



令和4年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年もちまた、新型コロナウイルス感染拡大・長期化に翻弄された1年となりましたが、10月頃から感染者数は急激に減り、以降は徐々に社会活動も活発化してきたように感じております。

この間、各企業は様々な対策を講じて防御線を張ってきたと思います。当社のような中小零細企業は豊富な人員がいるわけではありませんので、万一の時の代替は難しく、工夫を凝らしても限界がありました。その中で、何としても株主信用金庫にご迷惑をかけるような事があってはならないと、各金庫にも種々相談をしながら可能な限りの対策を講じて業務を遂行して参りました。

お陰様で、コロナ禍が始まって以来、社員全員が今日までを恙無く過ごしてこられたことは、もちろん一人一人の責任ある行動の賜物でもありますが、入居する(株)HBAシステムビルの厳重な管理態勢等、周囲のご協力もあってのことと思ひ、心から感謝申し上げます。

改めて昨年を振り返りますと、このコロナ禍には色々と感じかされたことも多かったと思います。リモート会議や在宅勤務等が一部当たり前のスタイルになり、それらがまたこれからの時代のトレンドの如く正当化されているような風潮にもなりましたが、一方で、それが根本的な人間関係の構築までには絶対に至らないことも明確になったわけで、その中で各企業は今後どのようなスタイルで進もうとしているのか、それが当社にどのように影響するか、今後の判断材料にはなったと思います。

薄れゆくコミュニケーションの中で、今年3月には鎌ヶ谷の全信協研修所が閉鎖されることを知りました。当時2週間コースの研修を3度も受講させていただいた私としては、これほど業界の素晴らしい繋がりを感じた場所は無く、本当に残念でなりません。

このように激変する時代の中で、昨年もちまた新語や流行語が飛び交いましたが、多数のワードの中で私が最も身近に意識していた新語といえば、やはり昨今耳目に触れない日はないほど当たり前になった「SDGs」でしょうか。今やその本質を理解しているとは思えない人でさえも、日本人の横並び意識でスーツや制服にバッジを付けている人を見るようになりました。私もまた、そのバッジを付ける一人ですが、当社のような中小零細企業が、会社としてこのSDGsにどれだけ貢献できるかは別として、せめて個人の行動、一人一人の意識によって少しでもSDGsの目標達成に近づくのであれば、私は積極的に声を上げ行動したいと思うのです。「開発目標」というと、どうしても個人には関係しない感覚にさせてしまっていますが、今後未来の子供達に少しでも良い環境を残していきたいという気持ちで「持続可能」という言葉を真面目に捉え、個人でやれる小さなことを実践する。一見グローバルな17の目標も、個人の取組み無くして2030年には達成できないと言われております。節電・節水、フードロスの意識、リサイクル・ゴミの分別・紙の無駄遣いを減らす...等々。今更ですが、当たり前の小さな取組みを怠らず、これらが積み重なって必ず地球の持続可能性に繋がると信じ、ポーズではなく、しっかり実践していきたいと思っております。

当社は昨年10月、お陰様で創立20周年を迎えました。時代は変化しようとも、当社の存在意義は変わりません。地域に根差し貢献する信用金庫に少しでもお役に立てるよう、一層尽力して参りますので、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、コロナ禍の一日も早い終息を願い、皆様にとりまして飛躍、発展の年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。





